

No.166

2011.  
9.1

# 岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名  
(岐阜県百年公園内)

岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL 0575-28-3111

## 博物館の使命

岐阜県博物館 館長 河合 正明



3月11日に発生した東日本大震災は、我が国に深い爪痕を残しました。毎日、新聞紙面で亡くなられた方のお名前を拝見するたびに、その方のその日まで過ご

されてきた日々を思い、深い悲しみに心が沈みます。

お亡くなりになられた方々に心から哀悼の意を表するとともに、被災された皆さま方に、心からお見舞い申し上げます。

このたびの震災は、我が国に社会的経済的に多大の損失をもたらただけでなく、これまでの、人と自然、人と科学の関わり方について、私たち一人一人に、これでよかったのか、このままでいいのか、深く重い課題を突き付けました。

そんななかで、あまりニュースにはなっていませんが、博物館も、多数の施設が被害を受けています。現在、文化庁が文化財レスキュー隊を立ち上げ保存修復に当たっており、当協会員からも、参加されたと伺っています。岐阜県博物館も、職員がレスキュー隊員として、壊滅的被害を受けた岩手県陸前高田市で活動するとともに、館としても陸前高田市立博物館の植物標本を一時保管し、修復に協力しています。

ところで、博物館には、人文社会科学系、自然科学系、美術館、動植物園などがあり、設置主体も様々です。このように多様な博物館の使命、役割は何でしょうか。

私は、博物館は二つの点で地域のアイデンティティを担っているのだと思います。一つは、博物館

そのものが存在することによって、二つ目は、博物館が、広く資料を、収集、保存、調査、展示することによってです。

岐阜県博物館でいえば、岐阜県に立地しているそのことにより、この地のアイデンティティを形成しています。そして、当博物館が保持している、岐阜県、日本、世界の資料により、この地の現在が、どのようにこれまでの時間軸、空間軸のなかで形成されてきたのか、言い換えれば、この地のアイデンティティは何かを伝えています。これは、地域とのつながりに程度の差はあっても、どの博物館にもいえると思います。

今日の私たちのありようは、たとえそれが時として苦いものであったとしても、これまで、その時々私たちが選んできた結果であり、それが私たちのアイデンティティです。私たちができるのは、あるいはなさなければならぬのは、これまでの選択の結果を踏まえ、今後、どう未来を選択していくかです。そして、その選択が適切になされるように、博物館は、その保持し、伝えているアイデンティティをきちんと提示していかなければいけないのではないのでしょうか。

そうであるからこそ、被災した博物館の復興は、地域のアイデンティティをなくさないため、そして、未来へ伝え、未来の適切な選択のために極めて重要な意味を持っているのだと思います。

このたびの震災は、私たちが様々なことを考える契機となりました。岐阜県博物館協会としても、あらためて博物館の使命とは何かを見つめ直し、今後の活動について再確認してもよいのかもしれない。

# 平成23年度岐阜県博物館協会総会・講演会報告

期 日：平成23年6月4日（金）  
会 場：じゅうろくプラザ

平成23年度岐阜県博物館協会総会・講演会は協会設立45周年を記念し、県民の方に広く協会の博物館活動を知っていただくことを目指し、会場をJR岐阜駅隣接の「じゅうろくプラザ」として、総会を午前10時半から5階第小会議室で開催し、午後1時半から2階ホールで「白山文化講演会+白鳥拝殿踊り披露」を開催しました。

## 【 総会 】

総会は会員31名の出席により行われ、若宮多門会長の挨拶に始まり、高木優榮前関ヶ原町歴史民俗資料館館長に功労者表彰が行われました。「大河ドラマ徳川三代・関ヶ原合戦特別展」「宮本武蔵と関ヶ原合戦展」など地元の歴史検証と企画展の企画運営に手腕を振るわれた功績が認められたものです。



( 高木優榮氏の挨拶 )

次いで議事に入り、平成22年度事業報告と決算報告、平成23年度事業計画と収支予算が承認されました。当協会は平成18年度から5年間、企業協賛を受け、特に十六銀行、大垣共立銀行、財団法人田口福寿会、岐阜信用金庫各社には資金面から継続して多大な支援をいただきましたので、来賓にお招きするとともに、5年間の事業成果報告として、県民文化講演会の開催、ガイドブックの作成、地域博物館活性化支援事業として各地区で

の独自の活動支援、会員館紹介のための多言語翻訳、公開講座の実施を報告いたしました。

続いて役員を選任が行われ、人事異動等により館長を代わられた次の方が紹介、選任されました。

役 職	氏 名	所 属
副会長	河合 正明	岐阜県博物館
理 事	小森 龍二	岐阜市科学館
理 事	亀谷 泰隆	可見郷土歴史館
理 事	谷田 吉和	高山祭屋台館
理 事	飯尾 正和	岐阜県先端科学技術体験センター館

また新たに顧問として、高山市の小野木三郎氏が選任されました。

## 【 白山文化講演会と白鳥拝殿踊り披露 】

「白山文化とは何か」をテーマとし、岐阜県博物館協会設立45周年記念白山文化講演会が開催され、一般県民の方を含め500名に届く参加がありました。

開会にあたり松川禮子岐阜県教育委員会教育長の挨拶をいただき、はじめに基調報告として若宮多門会長、長瀧白山神社宮司の概要報告がなされました。



( 講演会全景 )

若宮会長執筆による「白山文化手帖」が参加者に配布され、「水は命そのもの。」「草も木も虫も鳥たちも、いのちの源を求めて水辺へと導かれる。」「全国一白山神社が多い岐阜県。白山文化を識ることは岐阜県の文化を識ることとも言える。」など白山文化について報告されました。

全国白山神社数

岐阜県	525社
福井県	421社
新潟県	231社
愛知県	220社
石川県	156社
富山県	106社
埼玉県	102社
他37都府県	
合計44都府県	2,715社

大正三年内務省調査

続いて日本を代表する宗教学者の山折哲雄先生の「白山文化とは何か」を演題とする本講演がありました。物静かで説得力ある山折先生の語り口に会場はシーンとなり、先生の講演に聴き入りました。先生は岩手県花巻市がふるさと。東北大地震後のふるさとに行かれた先生は、「地震列島日本の風土と太古の昔からずっとここに生き続けてきた人々はつきあってきた。そのことがもしかすると我々日本人の可能性かもしれない。希望かもしれない。恐ろしい自然に打ちのめされた被災地の方々は、やがて再びこの静かで美しい穏やかな自然によって癒されていくんだ。」と述べられ、また寺田寅彦氏の「自然の猛威の前にこうべを垂れ、ひざを屈して、そこからいかに自分たちの生活を守るか、そのための工夫と知恵をずうっと積み重ねてきたんだ。太古の昔から。そういう環境の中で生み出されたのが日本人の学問だ。」の言葉を紹介されました。



( 山折哲雄氏の講演 )

さらに「日本人の無常観の大いなる支えになった考え方が、我が国の山岳信仰であり、神仏共存の思想だったと思います。」「このような観点から白山信仰を考え直してみることが必要なのではないか。」と述べられました。

最後に、白山の麓・郡上市白鳥町の白鳥拝殿踊保存会の皆さんによる「白鳥拝殿踊り」が披露されました。白鳥拝殿踊りは重要無形民俗文化財に指定されており、郡上踊りの原形とも言われますが、楽器の伴奏なしに歌声と、拝殿の床を踏み鳴らす下駄の音が踊りの調子を整えていく軽快な踊りで、会場を魅了しました。



( 白鳥拝殿踊り )

(専務理事兼事務局長 加藤英夫)

## 「平成23年度東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会 東海支部総会に参加して」

期 日：平成23年7月22日  
会 場：飛騨高山まちの博物館  
参加人数：48名

平成23年度東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会が7月22日、岐阜県高山市の飛騨高山まちの博物館にて開催されました。

はじめに、東海地区博物館連絡協議会 若宮多門会長の挨拶があり、続いて来賓の日本博物館協会 吉澤富士夫参事、岐阜県教育委員会 松川禮子教育長、岐阜県高山市 中村健史教育長の3氏が祝辞を述べられました。



( 若宮会長の挨拶 )

総会では、平成22年度事業報告及び決算報告、平成23年度事業計画及び予算案他の議題について報告、質疑応答がありました。

その後、今回の会場である飛騨高山まちの博物館 西永勝巳館長による講演会が「博物館からまちづくりへのアプローチ」の演題で行われました。

飛騨高山まちの博物館は、平成21年の高山市歴史的風致維持向上計画の重点区域にあります。伝統的建造物群保存地区と寺院群に整備する周遊ルートの拠点施設として、旧矢嶋邸と、そこに隣接する歴史民俗資料館「郷土館」が一体として整備され、平成23年4月に開館しました。

講演ではまず、文化財の保存活用に関して文化財は地域住民全体で保存活用するという考え方のもと、歴史を核とした地域マネジメント計画が生まれたこと、文化財課は地域資源である文化財をいかに活用するかを考え、掘り起こし育てることが仕事であると述べられました。そして、まちづくりにおける博物館の役割として、博物館は住民がまちづくりを進めるための知識拠点であることを挙げられました。

また、伝統的な建造物と、そこに生活する人々の伝統的な活動や生活文化が一体となった場所、そこに流れる空気を歴史的風致という述べられました。

高山市ではこの歴史的風致を向上させ、空間の魅力をまちづくりに活かそうと、高山市歴史的風致維持向上計画をたてたということです。



( 西永館長の講演会 )

この博物館の目的は、市民や観光客が気軽に集い憩う中で、城下町高山の歴史や文化にふれることにより郷土愛の醸成をはかったり、高山の魅力を感じたりしてもらうことであるということです。

博物館は高山市直営で入館無料、年中無休で開館しており、開館時間は午前9時～午後7時、庭園等は午前7時～午後9時、研修室は午前9時～午後9時となっています。

15室ある展示室では城下町高山の形成と町家文化をテーマとして、年3～4回企画展示を行い、常設展示も随時展示替えを行っています。

西永館長によると開館以来7万人の人が来館しているそうです。まちの博物館が開館する前の郷土館時代の来館者は年間1万人だったそうで、大幅に増えています。開館以来、古い町並みの方からこの博物館のある通りまで観光客が歩いてくるようになり、人の流れが変わってきているそうです。



( 受講の様子 )

その後、見学と懇親会が開催され参加者一同交流を深めました。

(機関紙委員 吉井隆雄)